

草の実分校 中学部 実践報告 「自立活動のとりくみ」

実態

中学部 1年 IV水準（パターン知覚水準）は 1 / 3 ほどできる。つかむ力はとても強いが、ゆるめたり、放したりが苦手な生徒である。また、表出言語としては単語が十語ほどであるが、学校生活でのことばは大部分理解できている様子である。

自立活動目標

- ・手指の巧緻性を高め、力の調整をすることができる。
(場面に応じて力の調整ができるようになって欲しい。)
- ・具体物とことばをつなげ、理解語を増やす。
(やりとりの幅を広げていきたい。)

学習内容

・○△□の型はめのパターン弁別 ・丸の入れ子 ・大小の弁別 ・色の弁別等を行いながら、ことばでのやりとりの幅を広げていく。

教材の選択



教材カードから、自分のやりたいものを選択する。カードを左右入れ替えても同じものを選ぶので、適当に取っているのではなく自分のやりたいものを選んでいる。

○△□の型はめのパターン対応弁別



○、△、□それぞれ単独のものは、できるようになった。年度初めは○より△、△より□の方が時間を要していたが、どれもスムーズになってきた。写真の3つともあるタイプのものも、さほど時間を要さずできるようになった。

○の入れ子



一番好きなもので、意欲的に取り組んでいる。次のパーツが欲しいときは「貸して、貸して」と言えたら渡している。力加減が難しく、崩れる時もあるが、今までなら怒っていたところを、何度も粘り強く取り組んでいる。

色の弁別



コーンを使っての色の弁別は4色までできる。ひとつずつ渡していくと分けることができるが、たくさんあるものを分けるのは難しい。また、後半になると疲労の影響もあって間違えそうになることもあるが、間違えさせないように「えーっ」とことばをかけると直すことができる。

大小の弁別



大中小の型はめはできるが、大中小ということばとしての理解はまだ曖昧である。「大きい取って」「小さい取って」ということばかけではまだ取れないので、大小2つで大きい、小さいということばと結びつくように繰り返し取り組む。

始点から終点までのリング抜き



抜くことはスムーズにできる。逆に入れることは苦労しながらもできるようになってきた。せっかく入っても力が入りすぎてまた抜けてしまうことも多々あるが、あきらめずにやっている。始点を右手で左に向けて入れるのは上手だが、反対の右に向けて入れるのは今のところ苦手である。

絵本



年度初めは、本は手の感触を確かめるものだったが、読み聞かせを続けていると、自分で本を見る場面が見られてきた。絵に向かって声を出していることもある。ページをめくるのは難しいので手伝っている。

まとめ

本人がコツコツとがんばって積み重ねてきたことで、手指の操作や、力加減等、徐々に調整ができるようになってきた。できたときの、とても喜んでいる表情から本人の達成感がうかがえる。また、表出言語にならなくても、その場面に応じて「あー」ということばを調子や声色で使い分けるようになり、やりとりの幅が広がってきている。トイレも「うーん」と言ってほぼ教えてくれるようになった。これからもさらにそれらを広げていきたい。